

高岡市総合計画審議会 第6回産業・文化・交流部会会議要旨

- 1 日 時 令和5年7月13日（木） 14時～15時
- 2 場 所 高岡市役所議会棟 第一委員会室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題 ①アフターコロナ（5類移行後）における現在の状況・課題・施策の展開について
【資料No.1】
②第4次基本計画（アフターコロナ編）策定スケジュールについて【資料No.2】

【主な意見】

《部会長》

アフターコロナになり、異常事態と言って良いほど、働き手がいなくて感じている。飲食業、宿泊業において、業務縮小により流出した人たちがその業界に戻ってきていないことが大きな問題点だと思っている。

《委員》

アフターコロナというこのタイミングで高岡市にとって大きかったのは国宝が二つとなったことであったかと思う。今回国宝となった勝興寺、瑞龍寺に加え、3つの重伝建等、高岡には拠点となるところがいくつかあるが、それぞれ単独の動きをしており、連携していないように見受けられる。

また、より非日常の空間を味わいたいというのが観光客の欲求であり、拠点の近くにたくさんのお店がにぎわっているという部分が大事ではないかと思う。市も開業支援をしているが、誰がどこで、いつから始めるかというところにまだ届いていないと思う。移住開業というか高岡で開業したいと思ってくれる人も全国探せばたくさんいるのではないか。

《委員》

数年前から、高岡の商店街でキャッシュレスに対する勉強会も行ってきたが、高齢化が進んでおり非常に厳しい状況である。高齢者のみのお店ではなかなか導入が進まない。高岡の商店街を調査したところ、4割程度しかキャッシュレスに対応していなかった。

《委員》

意欲的で起業したいというエネルギッシュな若い方が多いということを感じている。高岡は地場産業もたくさんある。チャレンジしたい方にはどんどんチャレンジしていただきたい。

しかしながら、昔に比べて商店街が寂しくなっている。飲食店があるので、夜になったら人通りも多少あるが、日中のにぎわいが少ない。観光客は最近戻ってきているが、先ほど委員のご発言のとおり観光客の方がこられたときに、周辺のにぎわいがなく、例えば大仏なら、それだけを見て帰っていかれるような状況を懸念している。

電子決裁サービス等をやりたがっている高齢者もいるが、やり方がわからない、誰に聞けば良いかわからない、という話も聞く。

《部会長》

インバウンドの観光客には無料 Wi-Fi が必要である。また、拠点と拠点をどう結ぶかは非常に重要である。国宝間の移動の案内があれば良い。勝興寺は車椅子の方の対応も考えることができれば、もっと行きやすい国宝になるのではないかな。

《委員》

コロナが 5 類に移行する直前からインバウンドの観光客がととも増えている。観光客が戻ってきたのは非常にありがたいことだが、言語対応や人手不足、二次交通といった部分でまだまだ不満が上がってきている。先程の Wi-Fi の話も同様である。

また、最近、ビジネスコンテスト等で学生との交流の機会が増えており、学生と話していると、いろいろなアイデアが出てくる。このアイデアをビジネスモデルにすることができればと思う。

インバウンド対応や、学生とどのように連携していくのかは、歴史文化、観光、交流のどの観点でも同様に必要なことだと思う。

《部会長》

確かに、インバウンドの観光客は増加している。しかし、中国からの観光客がまだ来っていない。中国からの観光客が増えてくると人手不足を解消しないと対応できない。

祭り等もコロナの影響で継続が危ういものもある。参加したいという参加者（外国人）を参加させるなどで一気に広がるのではないかな。

《委員》

観光客は確かに戻ってきているが、サラリーマンが全く戻ってきていない。オンライン会議の定着等もあり、減ったサラリーマンの移動が戻っておらず、宿泊に繋がっていない。自分たちも手を打とうとしているが、なかなか次の手が打てていないのが現状である。

《委員》

業界の中で、ChatGPT 等、新しいことに関して勉強会をしてほしいという声があり、大学の先生に講義いただく機会等を設けた。企業としては、人材不足でもあり、知識を得る機会や情報がなく困っている状況。全国的なデジタル化の好事例を関係団体に聞いていただくことも大切ではないかな。

《委員》

コロナ禍の反動で首都圏への一極集中の動きが、さらに加速するという危機感、これが前提として必要だろうと思う。

人口減少していくのはもう目に見えているので、関係人口等と関係性を深く結んでいきつつ、最終的に移住・定住の促進につなげるというシナリオで変えていかないと、将来の担い手の確保は、絵空事になってしまう。従って、交流・観光と移住・定住の促進を分けて考えるのではなく、その間に関係性を結びつけるいろいろな施策を検討する必要があると思う。

《アドバイザー》

先日、伏木港に大きな観光客船が2度入ってきて、それぞれ1,500人ぐらいの方々が高岡に滞在する機会があったが、正直、それほどお金は落ちないものだと感じた。

少人数のグループがゆっくり回るような観光が高岡にはあっているのではないか。そういった方をターゲットに、歩きやすいまち、制度にするという方向に力を入れるべきなのではないかと思う。

《アドバイザー》

交流人口も重要だが、当面の人口減少が避けられない中では、地域経済循環を維持する視点も重要である。人口減少下でも地域経済循環を維持できれば1人当たりGRP（域内総生産）は拡大する。ぜひこの視点も検討してほしい。

《アドバイザー》

今回のアフターコロナの施策については、IT、デジタル技術、そういったものの活用が中心であり、人材育成や技術習得マッチングというような効率性重視のものが多い。デジタル技術は大事なツールではあるが、共通で話し合う場（プラットフォーム）で、情報がきちんと共有できるような場づくりが求められるのではないかと感じた。

また、観光については、新幹線の敦賀延伸や2025年の大阪万博もあるので、ぜひ高岡の強みを生かした広域連携を進めていただきたい。